

2016年11月28日

## 札チャレラジオ通信 第46回

加納：3角山放送局をお聞きの皆さんこんにちは、11月28日月曜日午後3時札チャレラジオ通信のお時間です。私はパーソナリティーのNPO法人札幌チャレンジの加納直明です。よろしくお願いします。この札チャレラジオ通信は、自立を目指す障害のある人がITでマザル、ハタラク、拓きあう社会をつくりたい。そんな思いで活動しています、NPO法人札幌チャレンジが毎週月曜札幌チャレンジの活動内

お伝えする番組ということで、今日は11月28日ということなんですが、実は実は今日は収録をお届けをしております、今私がマイクに向かっているのは11月24日の11時でございます。来週月曜日どうしても都合が悪いので今日は収録をお届けをさせていただきます。

この番組はいつも毎回札幌チャレンジに関わりのある方にゲストに来ていただいて、その方とお話しをしながら札チャレのことをお伝えしてなんですが、今日は私一人でお話をさせていただきます。札幌チャレンジの活動をしていると、いろんな方からNPOとして16年7年になるのですが、大きくなったよねとか、札幌チャレンジはどうしてそういうふうになれたんですかとかっていうように、いろんな市民活動をしている方とか、一般の市民の方からも訊かれることがありますので、今日は少し札幌チャレンジの歩みと、ここまできたときの基本的な幾つかの考え方とか、ターニングポイントみたいなものがありまして。16年もやっていると、いろいろと時代の流れっていうのも非常に大きく影響しているかなっていうのもそのあたりのことを、お話をさせていただきたいと思います。それで実はその札チャレの歩みとも大変関係があるんですが。

今日24日ですから11月28日どうして私がこのマイクの前に立てないかっていうことに絡んで、お話をさせていただきます。実は、世の中にはいろんな素敵な団体さんがあるんですが、公益財団法人で、社会貢献支援財団という財団が東京に本部があって、その団体さんから表彰を頂くこととなりまして。11月28日の月曜日の10時30分から表彰式に出席するために、東京に行かなければいけないので、今日ここの前に事前収録ということになっております。社会貢献支援財団さんってまあホームページを見ていただくと分かるんですけど、毎年毎年全国の社会貢献に寄与されている団体とか個人を選んで表彰し、副賞で金一風を出されている団体さんです。平成28年度、我々が選んでいただいた回には、団体が36団体、個人が15人ということで、ホームページにその選ばれた方々のお名前が載っております。本当に全国の都道府県からわりとまんべんなく選ばれているような形

で、本当に札幌チャレンジの活動をどこでお知りになったのか分かんないんですが、選んでいただいてありがたいなと思っております。でこれから私が話す内容ひょっとしたらそういうことで札幌チャレは選ばれたのかななんていうところにも、繋がるかなと思いますので、お話をしていきたいと思います。

札幌チャレンジができましたのは、2000年です。2000年の5月に任意団体として札幌チャレンジというものが、生まれました。ラジオをお聞きの皆さん、2000年、あなたはどんなことをされていましたか。もう16年前です。今二十歳の方は、未だ4歳ですね。覚えてないですね4歳の時のことは、さすがに。今40歳働き盛りの方、16年前、24歳大学を出てとか、まあ学校を出て社会人になって数年っていうころですね。私は今55歳ですから、札幌チャレンジができた時には、16年前ですからまあ39歳という年でした。

その頃日本ではどんなことが起こっていたかという、まあいろんな出来事があったかと思うんですが、実は世の中にインターネットっていうものが急速に普及を始める夜明の年みたいな年です。ウィンドーズもウィンドーズ古くから使っている方は95、98ってあれ年代によってウィンドーズ2000っていう物に変わった年です。企業の人ですと、名刺にメールアドレスが載ったり、テレビではホームページのアドレスを口で「www.何とかかとかへぜひアクセスしてください」なんていちいち口で説明したんですね。今テレビでそんなことをいう人はまずいなくて、いけば皆ぐるみみたいな感じですが。そんな時代に、世の中にインターネット何かすごく面白い物があるみたいよみたいな話が出てきて、いろんな人が「私も触ってみたい」と思うようになったんですが。

そんな時に一人の女性が1冊の本を読み、「就労か、障害のある人がこのインターネットとかパソコンを活用すると今までなかなか障害があるがゆえにできなかったコミュニケーションや働くっていうことができるんじゃないだろうか」と思って市民運動を、市民運動として障害のある人がパソコンやインターネットを使って障害のある人が輝ける社会をつくらうよということで、つくった団体が札幌チャレンジです。でここで一つ大きなポイントがありまして、通常圧倒的多くの福祉団体、障害のある方に関わる団体ですと、障害のある方のために皆でボランティアで汗かいてその人たちのお役にたちましようっていうスタンスっていうかモチベーションの団体が多いんですが、私たちもそういう気持ちはありましたが、ゆいいつちょっと違ったのは有償ボランティアという考え方を基本に据えました。

一生懸命やるんですが、それを全くのただでボランティアをするのではなくて、障害のある方がパソコンを勉強すると。勉強する方には、ちゃんと受講料を払っていただくということで。1回2時間半の講習会を当時1200円、受講者の方からしっかりとお金を頂いて。で、その受講者から頂いたお金から講師には1回5000円をお支払をし、後会場費とか経



費に当てていくということで。小さな小さな金額の単位ではありますが、そこでお金の循環を生み出すということで、そんなことを基本にずっと16年間。今もその有償ボランティアという考え方が基本にあります。

まあいつもいつも必ずボランティアさんにお金をおお支払できるわけではないんですが、団体の基本的な考え方としてはそんなところから始まりました。で札幌チャレンジドできた時、市民活動とか市民運動団体ができる時っていうのは、会社を創るときであれば、資本金があったり最初にまず事務所をかまえようとかって事務所を契約して入るんですがNPOにはそんな財源はどこにもありません。

あるのは、たった一つ。やる気のある人が集まるっていうことですね。でも人間には、知恵があります。一人で考えていてもなかなか解決策が見つからなくても、3人・5人と集まると、いろんな知恵で課題が解決していきます。札幌チャレンジドでいうと、一番最初障害のある方にパソコンを教えたいんだけど、じゃあどうやって教えるんだって話ですよ。

パソコンなんてそもそも持ってないし、1台だけあったってね、障害のある人に集まってもらって、皆で1台触るっていうのもそれじゃあ講習会になりませんから。パソコンがしかもたくさん必要だ。そんな時に、世の中にどこにパソコンがたくさんあるだろうと考えました。で、思いついたのが大学の講習、パソコン講習室ですね。

パソコンの部屋ですね。それを何とかただで使わせてもらえないかっていうことで、大学に行ってお願いをして、快諾をいただいて札幌大学や札幌学院大学のパソコン教室を月に1回土曜日にお借りをして、パソコン講習が始まりました。まあそんなことからパソコンいわゆるパソコンボランティア団体として、団体活動が始まりました。それが2000年、2001年とまあじょじょにじょじょに広がって行って、1年目はパソコン講習を受講した人が300人。で、収入は、調査研究なんかもありましたんですが、155万円という規模の事業規模でスタートをしました。

事務局員はいません。で2002年になってやっと、少し収入規模が増えまして、2001年の段階で1337万円ということで。いきなり150万円が1337万円になって、これも不思議だなと思われるのですが。実は2001年、2002年に日本中でIT講習会っていうものがありました、覚えてますかね。当時の内閣総理大臣は、森吉郎さんですね、今東京オリンピック、パラリンピックでよく登場しておられますが。森さんが総理大臣の時に、日本中にITを広げるぞっていうことで、IT講習会をやられました。札幌市は、障害のある方はなかなか健常者と一緒だと勉強しづらいだろうということで、障害のある方だけの障害者向けのIT講習会をやるっていうこと「札幌チャレンジド講師を一手にさん、に

なり。じゃあそのとき誰が障害のある人にパソコンを教えられるんだと。

身体障害の人何かだと、別にそんなに普通に教えればいいわけですけども。例えば眼の不自由な方とか、聴覚障害の方もおられますから、そういう方にも教えるためには、そういう教える専門性が必要になってきます。そこで白羽の矢が立ったのが、札幌チャレンジドという団体で。「札幌チャレンジドさん、講師を一手に引き受けてほしい」ということになりまして、毎日月曜日から金曜日まで、そのIT講習会の講師をうけたりとかですね。

助成金何かにも、申請して助成金でパソコンをゲットしたりなどしながら、2001年2002年と事業規模を増やしていきました。これまさにある一種の神風っていうか、時代の流れなんですよね。こういう時代の流れがなければ、札幌チャレンジドがロケットスタートして事業規模を膨らますってことができなかつたと思います。そしてそれから毎年毎年少しずつ事業を拡大していきまして2003年には10月からは行政への提案が認められまして、札幌市障害者ITサポートセンターっていうそういう機能も私たちはやらせていただくようになりました。行政にもしっかり提案をしながらNPOだけでマチツクリをするのではなくて、企業行政とも一緒にマチツクリをしようとする考え方でさらに事業規模を膨らませていきました。そんな形でやっておりますが、しゃべり出すとなかなか時間はあつという間に過ぎるものでもう前半の時間になったようなので、ここでブレイクということで1曲聞いていただきたいと思います。

今日はプロ野球会で2逗留大谷翔平さん、本当にすごいパレード何かも見にきましたけど、「大谷さん、大谷さん、大谷君」て一番やっぱり声援を浴びておりました。彼の札幌ドームへの登場曲、《Do or Die》をお聞きください。

加納：3角山放送局をお聞きの皆さんこんにちは。札チャレラジオ通信引き続きお届けしていきたいと思います。今日は札幌チャレンジドの基本的な考え方とか、歩みのポイントっていうことをお話しております、その中のポイントは時代の流れということだったと思います。次にターニングポイントとなったことは、2006年です。札幌チャレンジドはNPO法人として障害のある方の働く支援をしたいということで、パソコンを使って障害者の人の働ける人を増やそうっていうことでずっと企業さんの方から仕事を頂きながら少しずつ障害者の人の仕事づくりをしておりましたが。

2006年に障害者自立支援法という法律ができて、10月から新しく大きく法律が変わりました。それまで札幌チャレンジドはそういう障害者の人の作業所ということには少し違和感を感じていたのになつていなかったのですが、法律が変わりまして就労継続支援



サービスというものがあらたに定義され、障害者の人をしっかり雇用契約を結んで働く支援をしようという法律になりました。私たちはその時ちょっと生意気な言い方ですが、法律が後から追いついてきたっていうかたちで自分たちがやっていたことそのままが法律家されたというふうに思ったので、ここで初めて障害福祉サービスの事業所になりました。そして最初は毎日札幌チャレンジドに通ってきて仕事をする人は4人だったんですが。

4人の人が企業さんから受けた仕事を毎日やって、一生懸命やって給与をもらおうと。そんなところからスタートをし、制度に基づくことでやはり事業基盤がしっかりしますので、それからまた働く人が増えて、今ではやく30名の方が毎日札幌チャレンジドの仕事をされています。雇用契約をしている方が25名ですね。雇用契約をしているということは、全最低賃金以上の賃金を払って、毎日札幌チャレンジドの事務所または家で働いておられます。

10年かけて2006年から今2016年ですから10年かけて4人から25人に少しずつ少しずつ毎年働いていただける方が増えてきたとこんな流れがありまして。やっぱり法律に基づいてこういう事業を展開したことが、企業さんから見てもしっかり職員を確保して、札幌チャレンジドに仕事をやってもらうんだっていうことで安心して仕事を出していただけるようになったかと思います。就労継続支援で働いている方に私はいつもいうことがあります。「あなたが一生懸命がんばって働いてくれることで、次のあなたを産めるんですよ」ということで、本当にその繰り返しっていうか、その積み重ねで4人が25人になったと思うので、本当に今一生懸命働いている人が次の社会、障害のある方が働ける社会をつくっているんだっていうことを日々実感しています。

その後2011年には今度は就職支援っていうものを事業化しました。札幌チャレンジドできた年から時々企業の方から「いい人がいたら紹介してください」というようなお話があったんですけども、2011年頃、国の方でも障害者法定雇用率っていうものをひじょうに重要視だしまして。かなり企業さんの方にも指導が入ったりして、そういう時代の流れがありまして、札幌チャレンジドに企業さんからとにかく「いい人を紹介してほしい」というようなお話がかなりコンスタントにくるようになりました。

また障害者の人も企業で働きたいんだっていう方もひじょうに増えてきたので、そこまで両社のニーズがあるのであれば、就労移行支援サービスこれも福祉制度なんですけどそういうものにしっかり利用しながら自分たちが今までやってきたことをさらにレベルアップしようということで、そういう障害の者の人が企業で働くという時代の流れにそって、2011年の11月から就労移行支援サービスということで就職支援をやっています。で今はその制度に基づいてしっかり職業を確保していますので、毎年4名ないし5名がコンスタントに企業に務め、さらにその人たちのほぼ8割以上の方が定着っていつてずっと辞めない

で働いているというような実績をあげられています。

こんなところで三つの大きなターニングポイントの話をしました。札幌チャレンジドがやっているこういう事業形態を世の中の的にいうとソーシャルビジネスなんていうふうに省かれていまして、あまりラジオをお聞きの方は聞かれたことはない言葉だと思いますが。社会の課題を事業を起こしながら解決していこうというのがソーシャルビジネスと呼ばれるものです。もう少し平たくいうと、社会の課題をお金を回しながら解決していくということですね。社会の課題はいろいろな解決方法があります。無償のボランティアさんで一生懸命汗を流して皆で協力して解決していくっていう解決の仕方も、もちろんあります。

ですが札幌チャレンジドがやっているのは、ソーシャルビジネスということで、とにかくいろんな事業を起こしながら解決をしていこうということで。少し古くなりますが経済産業省が平成 21 年に日本の中でソーシャルビジネスと呼ばれるものを 55 個選びまして、その 55 個の一つとして札幌チャレンジドも選んでいただいたということで。こんな流れがあります。またソーシャルビジネスと似たような言葉の定義として社会的起業、カンパニーのことですね、業を起こすではなくて起業。

社会的起業っていうものがあって、株式会社だけではなくて NPO 法人とか一般社団法人とかそういう法人も含めて指すんですが。その社会的起業として札幌チャレンジドは、認識をしていただいたようで平成 27 年に発行されました実教出版から発行された高校の政治経済の教科書にも載せていただけるようになったってということで、札幌チャレンジドの 16 年の歩みをソーシャルビジネスっていう言葉であったり、社会的起業っていうような形で認識していただけるようになって大変我々はありがたいなというか、思っております。

そんなことを 16 年間地道にやっていたら昨年度初めて売上が 1 億円ということになりました。けっして今まで売上を目標にしてきたことは 1 回もありません。我々が目標にすべきことはどうやって社会課題を解決していくのか。その解決していくためにどんな事業をやればいいのかっていう事業であったり、活動ですね。活動をどう広げていくのか、大きくしていくのかっていうことは常々皆で相談しながらやってきていて、その結果が 1 億円という事業規模にもなったのかなと思っております。

こんな形でこれからもまだまだやっていきたいことはあります。来年 4 月からまた新たな未だ取り組めていなかったことをやろうと思っております。そのお話は来月、この札幌チャレンジド通信も残すところあと 12 月のみとなっております。その中でまた皆さんにぜひ聞いていただきたいと思います。障害のある方が IT でマザル、ハタラク、拓きあう社会をつくる、これをテーマに札幌チャレンジドは自分たちができることを少しずつ増やしていきたい

がら、多くの方と一緒に活動をしていきたいと思っておりますので、ぜひぜひまた興味のある方は札幌チャレンジドの事務所を。札幌市北区北7上西6丁目、北園ビルというビルがあります。淀橋カメラさんの斜め向かいにあります。こちらに来ていただいて見学などしていただけたらと思います。それでは今日はどうもありがとうございました。